

(別記)

## 2019年度鮭川村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本村の水田面積は2018年度末で約1,665ha、うち主食用米面積が967haと約58%の割合で、転作作物に占めるそば、飼料作物、山菜、野菜等の面積が多く、全水田面積の約23%をしめている。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物への作付に転換を促進することで水田面積の維持を図っていく必要がある。

加えて農業者の高齢化が進み、比例して離農者が増加し、不作付地の拡大や耕作放棄地の増加が懸念される中、水田面積の維持が課題となっている。

その他、「そば」については気象条件に左右されやすく、収入に結び付きにくい等の課題もあり、地域特産物である、「わらび」をはじめとした山菜への転換が進んでおり、併せて飼料用米への取り組みも増加していることから、飼料用米、山菜、アスパラガス等重点振興作物の産地化を目指す。

### 2 作物ごとの取組方針等

村内の約1,665ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本とし、産地交付金を有効活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

安心・安全で高良食味米の生産の取り組みを継続しながら米の主産地としての地位を確保する。また、直播栽培や共同防除による低コスト生産を推進し、また、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要の減少が続く中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置付け、生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用した多収品種の導入推進及び多収栽培等による高単収・低コスト生産等の推進を図り、3年後には現状の2倍の生産面積を目指す。

##### イ 米粉用米

取組なし

##### ウ 新市場開拓用米

主食用米の需要の減少が続く中、将来に向けた取り組みとして、新たなマーケットを切り開いていく取り組みを推進する。

##### エ WCS用稲

畜産農家との需要量を勘案しつつ、取り組みを推進する。

##### オ 加工用米

産地交付金を活用し、集荷業者等と連携しながら複数年契約など実需者との結びつきを強化し、生産の維持・拡大と安定取引の推進を図っていくこととする。

## カ 備蓄米

政府備蓄米の動向を注視しながら集荷業者等と連携して取り組み、備蓄米生産を維持する。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、取り組みなし。

大豆については、実需者との結びつきを強化しながら、現在の作付面積を維持する。

飼料作物については、近隣の畜産農家からの需要が増加していることもあり、増加傾向にあることから、不作付地の解消の方策の一つとして作付の推進を図る。また、飼料作物の供給を受けた家畜の排泄物から生産された堆肥を飼料作物の生産水田に施肥する資源循環の取り組みを推進する。

### (4) そば、なたね

そばについては、排水対策や肥培管理を積極的にすすめ、実需者との契約に基づき、作付を推進する。

なたねについては、実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

重点振興作物の「アスパラガス」、「きゅうり」、「ねぎ」、「トマト（ミニトマト含む）」、「いちご」、「うるい」、「ししとう」の野菜、「りんどう」、「トルコぎきょう」の花き、9品目については産地化が図られ、JAとJA区域の三村とで組織する「三村園芸協議会」の中でも特に重点的に振興が図られており、村の園芸振興の中核として農業所得の向上を目指すことを目的に位置付け、産地交付金を活用することにより生産意欲の向上と生産面積拡大と技術力向上を図る。

産地振興作物「わらび」、「たらの芽」の山菜類については、不作付地の解消や農業所得の向上に資するため、地域特産物として推進し、拡大を目指す。

また、その他の作物についても振興作物として振興を図ることとする。

なお、バラをはじめとする花き・花木は、村の園芸作物でも特に産出額が大きく、生産者も増加していることから推進を図る。また、おうとうをはじめとする果樹については、水田の利活用として新植時のみ助成とし、生産を維持する。

ハトムギ等の雑穀の生産面積も拡大しており、中山間の条件不利地である本村の耕作放棄地を未然に防止し、農地の持つ多面的機能の発揮のために推進する。

また、実需者からのニーズの高いえだまめについては、作付拡大への支援を行うことで推進を図る。

さらに、トマト・トルコぎきょうを中心とした施設園芸に対しては、施設の初期投資、維持管理経費がかかるため、産地交付金を活用し、生産者の意欲向上、安定的な生産に資することで施設園芸の推進及び面積の拡大を図っていく。

### (6) 畑地化の推進

主食用米の需要が年々減少する中、野菜等の高収益な畑作物の本地化を進める必要があるため、産地交付金を活用し、排水改善や作業効率の向上を図っていく。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	967.3	999.0	999.0
飼料用米	8.2	8.5	10.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	1.0	1.6	1.6
WCS用稲	3.5	3.5	3.5
加工用米	80.6	50.0	70.0
備蓄米	69.2	69.0	69.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	9.4	10.0	10.0
飼料作物	65.2	66.0	70.0
そば	152.6	172.6	152.6
なたね	1.2	1.2	1.2
その他地域振興作物	154.7	160.7	170.8
・アスパラ	8.3	9.0	10.0
・きゅうり	8.0	8.5	9.0
・ねぎ	8.2	8.5	8.5
・トマト(ミニ)	2.6	3.0	4.0
・いちご	0.5	0.5	1.0
・うるい	3.8	3.8	4.0
・ししとう	1.0	1.2	1.5
・りんどう	4.0	4.1	4.2
・トルコぎきょう	0.8	1.0	1.5
・たらの芽	2.2	2.6	2.6
・わらび	49.4	50.0	51.0
・その他野菜	36.7	38.0	40.0
・その他山菜	20.2	21.0	23.0
・その他花き・花木	1.5	2.0	3.0
・果樹	2.9	2.9	2.9
・その他作物	4.6	4.6	4.6

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	アスパラガス、きゅうり、ねぎ、トマト(ミニ)、いちご、うるい、ししとう、りんどう、トルコぎきょう	重点振興作物助成	重点振興作物の作付面積	(2018年度) 28.0ha	(2020年度) 29.0ha

2	たらの芽、わらび	産地振興作物助成	産地振興作物の作付面積	(2018年度) 40.7ha	(2020年度) 44.4ha
3	野菜、花き・花木、雑穀、その他の作物（別紙の産地交付金振興作物助成対象作物及び単価表のとおり）	振興作物助成	振興作物の作付面積	(2018年度) 21.2ha	(2020年度) 23.3ha
4	施設園芸作物（アスパラガス、きゅうり、トマト、ミニトマト、いちご、トルコギキョウ、ししとう、バラ、ストック、鉢物・花壇苗（サルビア、ペコニア、マリーゴールド、ガザニア、ペチュニア、インパチェンス、ナデシコ）、小松菜、シイタケ）	施設園芸助成	施設園芸面積	(2018年度) 3.6ha	(2020年度) 3.9ha
5	飼料作物	飼料作物の資源循環型利用助成（耕畜連携）	取組面積	(2018年度) 31.0ha	(2020年度) 41.2ha
6	飼料用米	飼料用米多収栽培支援助成	多収栽培技術導入面積 10a 当たりの収量	(2018年度) 8.2ha (2018年度) 519 kg /10a	(2020年度) 10.0ha (2020年度) 658kg/10a
7	飼料用米	飼料用米多収品種取組助成	多収品種取組面積	(2018年度) 8.2ha	(2020年度) 10.0ha
8	そば、なたね（油糧用）	そば・なたね取組助成	そばの作付面積 なたねの作付面積	(2018年度) 152.6ha (2018年度) 1.2ha	(2020年度) 152.6ha (2020年度) 1.2ha
9	新市場開拓用米	新市場開拓用米助成	新市場開拓用米の取組面積	(2018年度) 1.0ha	(2020年度) 1.6ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり